

〔個別研究〕

子ども家庭福祉施策の評価に関する考察(2)

「子育ての社会的支援に関する意識調査」の結果から(1)

子ども家庭福祉研究部 山本真実
嘱託研究員 中谷茂一(東海大学)
嘱託研究員 熊井利広(三鷹市役所)

要約

利用者側の意識や実態からのニーズ把握を検討するため、一般市民を対象として「子育ての社会的支援に関する意識調査」を実施した。今回の調査では、実際に子育てを行っている乳幼児を持つ一般家庭を対象に行うことにより、社会的支援サービスを実際に利用する側にたつての意見を集約することを目的とした。

三鷹市・小平市、葛飾区、川口市の4自治体の協力を得て、1歳6ヶ月と3歳の乳幼児健診で調査票を配布、後日個別に郵送で返信してもらう方法をとった。調査時期は1998年7月7日から10月8日までの3ヶ月間で、調査票配布数は1997通。回収状況は711通で、回収率は35.6%であった。

本稿は実態調査の結果の概要報告である。

見出し語 子育て支援サービス 保育サービス 利用者の視点 自治体サービス

Quality Assessment within support services for child rearing in municipal social services (2)

Mami YAMAMOTO, Shigekazu NAKATANI, Toshihiro KUMAI

ABSTRACT

This research was carried out by means of a questionnaire targeted at those who are currently actively involved in child-rearing, with the aim of examining and clarifying the consciousness and behavior of parents concerning child rearing and the legal responsibility to report and investigate child-abuse cases.

The survey was conducted from 7 July to 8 October 1998. Four municipalities, Mitaka-city, Kodaira-city, Katsushika-ward and Kawaguchi-city, cooperated. The total number of questionnaire sheets distributed was 1997. The sheets were distributed to parents who brought their children to the 18 month and 3 year old Child Health Examination. The participants returned the sheets to us directly.

711 responses were received, the rate of collection being 35.6%.

This report is the overview of result of this research.

KEY WORDS Support services for child rearing, Child care services, Client-oriented perspective, Municipal social services

I. 緒言

1. 研究の背景と問題意識

平成10年4月より改正児童福祉法が施行された。児童福祉法改正の意義はいくつかにまとめられているが、その中でも児童家庭福祉行政における一つの役割として「子育て支援」を法の中に規定したことの意義は大きいといえる。改正を契機として、地域での相談サービスの充実も図られたこともあり、「子育て支援」という言葉が意味するものは多様化している。また、児童福祉法改正による保育システムの転換も「子育て支援」のあり様を見直す契機となった。行政処分による措置入所から、利用者の選択性をより高めた形での契約制へと転換したことは、「子育て支援」の担い手や供給体制、利用側の意識等サービスを取り巻く周辺環境に影響を与えている。従来の措置制度に基づいた公的主体による硬直的なサービス体系・体制が柔軟化・多様化する方向を示したことに加え、十分な情報提供や住民参加も子育て支援サービスを実施するうえで重要な要素であることが明確になった。また、社会福祉基礎構造改革でも「利用者主権」の視点をふまえた提供体制のあり方が基本におかれている。この社会福祉基礎構造改革で提示されている方向性は、児童福祉法の改正による保育制度改革において、すでに提示されているものであることが指摘されている〔前田, 1999〕ⁱが、両者に共通している視点の一つが「利用者の視点」である。

また、平成7年以降各地で策定されている児童育成計画（地方版エンゼルプラン）においても、保育サービスのニーズ把握の方法を、措置要件を中心とした提供側主体の算出（就労の有無、同居家族の状況など）方式から、利用者の生活実態（子どもの居場所、就労意向など）に基づく利用者サイドの視点を軸としたものとして考えていくことを促している。現在、緊急保育対策等5か年事業の項目を中心として特別保育事業の実施に向けて多くの取り組みがなされているが、延長保育や一時保育事業も提供サイドの条件を考える前に、利用者の声に応じて積極的に実施を検討する自治体も見られている。

しかし、児童育成計画策定に際して例示された需要算出も、利用者ニーズを反映させた形でダイレクトに事業実施の優先順位を提示することができないという問題がある。つまり、定量的手法によって把握した保育ニーズ（需要）量と、保育事業量決定の間には有機的な関連性がないということである。「政策的判断」を加えて保

育事業量の決定することとなっているがⁱⁱ、この政策的判断に至る前に需要の優先順位（強弱）を客観的に示すことが望ましいと考えられている〔村山, 1997〕ⁱⁱⁱ。

Aaltonen(1999)^{iv}は、先行文献の調査を通して社会福祉サービスの評価に関する視点を「1. 利用者の視点（Client-perspective）」、「2. 組織の視点（Organization-perspective）」、「3. 目的結果の視点（Objective-and result-perspective）」、「4. 過程の視点（Process-perspective）」の四つに分類している。そして、それぞれの視点において重視される軸を示しているが、これによると、「1. 利用者の視点（Client-perspective）」の場合、利用者の意向や期待が充足されるかどうかの評価の軸になる。この意味においても、「利用者の視点」つまり利用者ニーズをどのように定義し、測定するかはこれからの子育て支援サービス考える上で検討していく必要があるだろう。

2. 視点・目的

昨年度は児童育成計画策定指針に掲げられた4つの視点に注目し、今後ふまえるべき事項としての私見を述べた。その中の一つである「利用者の視点」に着目しさらに考察を深めていくことを当面の課題とした。

そのステップとして、①利用者側の意識や実態からのニーズ把握を行い、②利用者のニーズとは何であるのかを明らかにし（何によって変動するのか）、③子育て支援サービスにおける社会的関与についての考察、の三つを設定した。今年度は、①利用者側の意識や実態からのニーズ把握を検討するため、一般市民を対象として「子育ての社会的支援に関する意識調査」を実施した。今回の調査では、実際に子育てを行っている乳幼児を持つ一般家庭を対象に行うことにより、社会的支援サービスを実際に利用する側にたつての意見を集約するを目的とした。

II. 研究方法

1. 実態調査の概要

本調査では、健康診査（以下健診）を受けた子どもの親で、主に子育てをしている方を調査対象とした。ちなみに調査期間中の三鷹市の健診受診率は、1歳6か月児健診が82.9%、3歳児健診が80.3%であった。健診は乳幼児の子育て世帯の8割にアクセスできる可能性があるものであるといえる。

東京都三鷹市・小平市・葛飾区、埼玉県川口市の4自治体の協力を得て、1歳6か月および3歳の乳幼児健診会場で調査票を配布、後日個別に郵送で返信してもらう方法をとった。ただし、川口市は1歳6か月児健診を民間に委託しているため、3歳児のみを対象とした。

調査時期は、1998年7月7日から10月8日までの3か月間で、調査票配布数は、三鷹市451、小平市387、葛飾区619、川口市540、計1997票。

2. 調査項目

調査票は、大きく分けて保育子育て支援サービスにかかわる項目と不適切な関わりへの公的機関の介入にかかわる項目から構成している。詳細は次のとおりである。

1) 子育てに関する経験、2) 相談先、3) 交友関係、4) 配偶者の協力度、5) 子育て支援サービスに関する重視条件、6) 育児に関する心配事、7) 現在のしつけ方針、8) 親が子どもの時に受けたしつけ、9) しつけ・体罰に関する意識、10) 公的な専門機関による親子分離・調査に対する意識、11) 児童相談所の立ち入り調査・一般市民の通告義務に関する認知と意識、12) 自己イメージ、13) 育児不安尺度(牧野カツコ)¹⁾、14) フェースシート

III. 研究結果

本稿ではまず単純集計結果をもとに全体の傾向を報告し、次に社会的支援の関与についての考察の一助とするために自治体別クロス集計の統計的有意が見られる結果にふれながら考察検討を行った。

1. 回収結果・基本属性

回収率は自治体によって28.1%から45.2%と差があった。回収した調査票のうち1票が長期別居中により配偶者に関する設問への回答に不整合があり、分析対象サンプルからはずしたため、有効票数は合計710票であった。

本調査のサンプルの特徴として、女性が696(98.0%)で、そのうち専業主婦が533(75.1%)であり、我が国の特徴であるM字型の女子労働力率の全国データを参考にすると、本調査回答者は専業主婦の割合が全国水準より高い傾向にあるといえる。

回答者基本属性は下記のとおりである。

調査回答者基本属性 (N=710)

健診年齢 1歳6か月児健診 272(38.3%) 3歳児健診 425(59.9%)
無回答 13(1.8%)

回答者性別 女性 696(98.0%) 男性 3(0.4%) 無回答 11(1.5%)

配偶者(同棲者・パートナーを含む) いる 700(98.6%) いない 10(1.4%)

年齢 20歳代 156(22.0%) 30歳代 511(72.0%) 40歳代 23(3.2%)
無回答 20(2.8%)

居住年月 1か月以内 6(0.8%) 2~3か月 32(4.5%) 4~5か月 21(3.0%)
6か月~1年以内 38(5.4%) 1~3年 291(41.0%)
4年以上 321(45.2%) 無回答 1(0.1%)

職業 フルタイム(民) 51(7.2%) フルタイム(公) 28(3.9%) パート(民) 54(7.6%)
パート(公) 1(0.1%) 自営 33(4.6%) なし 533(75.1%)
無回答 10(1.4%)

最終学歴 中学卒 16(2.3%) 高校卒 201(28.3%)
高専・専門学校卒 176(24.8%) 大卒(短大含む) 295(41.5%)
大学院卒 15(2.1%) 無回答 7(1.0%)

健康状態 健康 656(92.4%) 継続的に通院中 47(6.6%)
無回答 7(1.0%)

経済状態 かなり余裕がある 12(1.7%) 余裕がある 88(12.4%)
普通 367(51.7%) やや苦しい 188(26.5%)
かなり苦しい 50(7.0%) 無回答 5(0.7%)

2. 子どもに関わった経験の有無

自分の子どもを持つ前の子どもに関わった経験についてみると、「親族知人の乳幼児の世話」について「経験あり」が264(37.2%)で最も高かった。「乳幼児に直接かかわる仕事(含アルバイト)の経験」は114(16.1%)、「専門職として関わった経験」は76(10.7%)で、6割以上の母親にとっては自分の子どもを出産して初めて乳幼児と直接関わっており、子どもを持つ前に乳幼児との関わりを持つものは少ないという実態が明らかになった。

3. 子育てに関する相談先

家族以外の子育ての相談先では、「保健所・母子保健センター・保健センター」が45.4%で最も高く、ついで「病院」の39.7%であった。調査対象となった乳幼児が1歳6か月、3歳児健診への来者ということであったため、「保育所」や「幼稚園」といった幼児を中心としたサービス機関は2割程度であった。

家族や身近な友人が相談相手の中心であることは、各種調査において報告されているが、乳幼児の場合の身近な子育て相談先は、「保健所・母子保健センター・保健センター」や「病院」等の保健・医療機関であり、これらとの連携をいかに図っていくかが課題の一つとして挙げる

ことができる。

4. 継続的に交流している相手、配偶者の協力について

(1) 継続的に交流している関係

最も多いのは「子育てをしている同級生」556(78.3%)、次いで「子育てをしていない同級生」366(51.5%)であった。自分の友人関係を中心として日常的なつきあいをしている様子がわかる。

(2) 配偶者(同棲者・パートナーを含む)の協力について

配偶者の育児参加については、「積極的によく参加している」が236(33.7%)と3割程度であったが、「部分的であるが積極的に参加している」が353(50.4%)で、合わせると84%強が「積極的である」と回答者(妻、子どもの母親)に評価されていることがわかる。

また配偶者とのコミュニケーションについては、最もよく話す話題として「子どもに関することについて」を78.4%が挙げており、「悩み事や心配ごとについて」の39.9%に比べると大変高いことがわかる。しかし、「よくある」と「時々ある」を合わせた値をみると、「仕事について」も含めた三項目のいずれも8割が「よくある」としており、調査対象者の夫婦間におけるコミュニケーションは頻繁であるといえる。

5. 子育て支援サービス選択の条件

ここでは、子育て支援サービスのタイプを「短時間の託児サービス」、「日常的な託児サービス」、「親子の遊び場サービス」、「専門的な相談サービス」、「日常的な相談及び情報入手」の5つに分類し、サービス選択を行う場合の優先順位について調査を行った。それぞれについての選択条件の優先事項を第三位まで記入するという形式をとった。「総合ポイント」は1位項目について3ポイント、第2位項目については2ポイント、第3位項目については1ポイントをそれぞれ乗じて算出した。

まず、全体的な特徴として「短時間の託児サービス」、「日常的な託児サービス」、「親子の遊び場サービス」については「自宅からの近いこと」が最も重視されていた。「日常的な託児サービス」では「専門職員による対応」も選択条件として15.6%の人が挙げており、短時間の託児サービスとの重視項目との違いを示している。「親子の遊び場サービス」、「専門的な相談サービス」、「日常的な相談及び情報入手」では「基本的に無料」であることが一番の条件として挙げられているが、「日常的な相談や情報入手」については、経験豊富な

職員であれば専門資格の有無は問わず、また母親同士などの互助活動でもよいとの結果が出ている。

「サービスの内容によっては有料(自分の利用希望に沿ったものであれば金額の多少は問題ない)」の項目に注目してみると、短時間、日常的の違いにかかわらず、「託児サービス」については、ポイントが151となっており、「基本的に無料」の項目に対しても大きなポイント差を示してはいない(短時間の託児サービスの場合は3ポイント、日常的な託児サービスの場合は12ポイント)。このことから、サービス利用に対して金銭的対価を支払うことへの抵抗感はほとんどないと言える。一方、「相談サービス」についてみると、「基本的に無料」が圧倒的に高く、「有料でもよい」との差は600ポイント以上になっている。つまり、情報提供や相談といった内容の子育て支援サービスは、金銭的対価を支払って購入するものではないと考えられていると言える。

基本的にすべてのサービスにおいて、「無料」、「自宅から近い」、「都合に合わせて利用できる」の三つが優先されているが、優先順位の2番目、3番目の選択傾向をみると、選択決定要因に違いがあることがうかがわれる。それぞれの選択条件の組み合わせについて分析を行っていないため、サービスごとの選択条件パターンについて示すことはできないが、上記の「無料」、「自宅から近い」、「都合に合わせて利用できる」の三つの条件は子育て支援サービスだけでなく、すべての生活支援サービスにおいて求められる基本的条件であることから考えると、これら共通条件を排除したときに残るものが、個別サービスの潜在的な利用者ニーズを説明する項目であると考えられよう。

6. 就学前児童への社会的支援サービスのイメージ

幼稚園と保育所へのイメージなどを中心に、就学前児童に対する社会的支援サービスに対する考え方をたずねたところ、「実施主体は問わずに選択肢を多く提示し個人の事情に応じて自由に選択できる体制の整備が望ましい」という考えには93.5%が肯定意見(そう思う+まあそう思う)を持っており、「長時間保育や夜間保育等の整備」に対しても否定的ではないとする層が68.4%であった。しかし、「幼稚園と保育所はどちらも就学前の子どもに対する社会的支援サービスである」というのは53.1%が肯定している一方、この考えに対して否定的な層は44.8%であった。これは、「社会的支援サービス」という言葉が意味しているところを共通に理解していないという懸念があるものの、保

育所と幼稚園を同じ「社会的支援サービス」として扱うことに対する抵抗感が残っているということがうかがえる。自由に選択できるサービスの対象は保育所と幼稚園を合わせたエリアまで拡大していくことが望ましいとしながらも、現在の二元サービスの存在に対して31.6%が否定的な意見を持っているという結果になった。この意識と親の利用経験とは統計的な関係性を見いだすことはできなかった。

7. 子育て相談の必要を感じた時期

子育て相談の必要を感じた時期を、その強さと合わせて回答してもらったところ、「大変強く感じた時期」、「強く感じた時期」とともに「退院後1か月まで」が最も高く、153(21.5%)、107(15.1%)となっている。「1か月～3か月」がそれに次いで高く、退院後～3か月までの間が、毎日の子育てに不安を感じている層が多いということがわかった。

8. 育児に関する心配事

育児に関する日常の心配ごとについて「よくある」、「時々ある」、「ほとんどない」、「全くない」の4つで回答してもらった。「よくある」の割合が高かったものは、「育児やしつけの方法について不安を感じる」150(21.1%)、「自分の時間がもてないことに不満を感じる」162(22.8%)、「子どもを叱りすぎているように感じる」169(23.8%)の三つであった。この三つは「時々ある」の割合も高く、「よくある」と「時々ある」の合計を見ても、「育児やしつけの方法について不安を感じる」は562(79.1%)、「自分の時間がもてないことに不満を感じる」526(74.1%)、「子どもを叱りすぎているように感じる」509(71.7%)となっており、7割以上の回答者が日常の育児において何らかの心配ごとがあることがわかる。

反対に「全くない」の割合が高いのは「話し相手がいなくて孤独を感じる」183(25.8%)、と「育児の協力者がいないことで負担を感じる」144(20.3%)であった。これは先にみた配偶者の育児参加やコミュニケーションの頻度からも裏付けられる結果であった。

9. しつけについて

(1) 現在のしつけ方針

「言い聞かせる」ことと、「たたく」ことのバランスを中心に、現在のしつけの方針についてたずねた。回答者と配偶者をそれぞれたずねたが、最も違いが出たのは「言葉で言って聞かせ、たたくことはまったく

しない」であった。回答者の場合は60(8.5%)であったのに対し、配偶者の場合は240(34.0%)であった。「なるべく言葉で言ってきかせるようにしているが、まれにたたいてしつけるときもある」は回答者が460(64.8%)で配偶者の場合は314(44.5%)であった。「言葉だけでわからないときはたたいてしつけるようにしている」は、回答者169(23.8%)、配偶者114(16.2%)であった。このことからみると、回答者の98%が女性であったことから、配偶者(父親)の約8割は「どちらかと言えば言葉中心のしつけをしており、たたくことは稀である」のに対し、回答者(母親)の9割近くが「なるべく言葉で言ってきかせることを基本としているが、たたくことも否定しない」という態度を示している層であるということがわかった。つまり、これは日々子どもと接している母親の方が父親よりも「しつけの一環」と称して子どもをたたく傾向があるということが言えよう。

また、大変低い割合ではあるが、たたくことをしつけの中心としていると考える層が存在することもわかった。

(2) 親が子どもの時に受けたしつけとそれへの意識

親からうけたしつけと自分の子どもへのしつけの関係を明らかにするための資料として、子どもの時にうけたしつけとそのことに対する感じ方についてたずねた。「言葉を中心としたしつけであった」と回答した層(「時々たたかれたも含む」)は、「父親から」の場合は592(86.1%)、「母親から」の場合は611(87.1%)であった。一方、「たたくことが中心としたしつけ」を受けたと回答したのは、「父親から」34(4.9%)、「母親から」14(2.0%)であった。

この過去の親からのしつけに対してどのように感じているかでは、「子どもの頃は現在も親のしつけ方に不満はない」が最も高く、「父親から」379(55.1%)、「母親から」374(53.3%)であった。「子どもの頃は親のしつけ方に不満はあったが現在は理解している」と合わせると、8割以上が親からのしつけ方に対して理解を示しているという結果であった。一方、「子どもの頃は現在も親のしつけ方に不満を感じている」、「子どもの頃は理解していたが、現在は不満に感じている」と回答した「親のしつけ方に不満を持っている」層も1割程度であった。

調査仮説の一つであった、しつけに関する過去の体験と現在の態度の関係については、父親、母親の両方において見られたが、特に過去の母親からのしつけを

「言葉によるしつけだけで、たたかれることはなかった」層で、現在「言葉で言って聞かせ、たたくことはまったくしない」層は42(13.7%)、「子どもの頃も現在も親のしつけ方に不満はない」層で現在「言葉で言って聞かせ、たたくことはまったくしない」とする層が46(12.5%)で、他の層と比べて高い傾向にあることがわかった($P<0.001$)。

10. 体罰と公的介入に関する考え方

「体罰は子どもの心に傷をつけると思う」という考えに「はい」が565(79.6%)の回答である一方、「しつけのためには体罰も仕方がない」「愛情があれば体罰は行ってもいい」に対しては、「はい」とするものがそれぞれ、334(47.0%)、349(49.2%)となっており、体罰は子どもの心に傷をつけると思っていながらも、子どもへの愛情を持ったしつけの一環としてであれば認容するという考えを持った層が多いことを示している。

立ち入り調査や親子分離等の公的機関の介入については95%以上の層が肯定していた。

11. 虐待への対応について

(1) 通告義務・立ち入り調査権の認知

通告義務について、「知っている」162(22.8%)、「知らない」543(76.5%)、「無回答」5(0.7%)であった。立ち入り調査権については、「知っている」230(32.4%)、「知らない」474(66.8%)、「無回答」6(0.8%)である。専門機関による権限である立ち入り調査権より、市民の通告義務が特に知られていないことが明らかになった。

(2) 義務・立ち入り調査に対する意識

さらに、通告義務と立ち入り調査権のそれぞれに対して、知っていたかどうかにかかわらず、その必要性について考えをきいた。

通告義務に対しては、「他人の子育てについて通告することは必要でない」9(1.3%)、「子どもの傷など確実な証拠がある場合に限って通告は必要である」303(42.7%)、「子どもの保護のためには虐待・ネグレクトが疑わしい時点で通告が必要である」393(55.4%)、「無回答」5(0.7%)であった。

立ち入り調査権に対しては、「他人の子育てについて公的機関が家庭に立ち入ることは必要でない」14(2.0%)、「子どもの傷など確実な証拠がある場合に限って必要である」198(27.9%)、「子どもの保護のため

には虐待・ネグレクトが疑わしい時点で立ち入り調査が必要である」490(69.0%)、「無回答」8(1.1%)であった。

公的機関の立ち入り調査権であるにもかかわらず、疑わしい時点で必要とする層が7割近くあるのに対して、市民の通告義務になると5割に減り、確実な証拠が必要であるという層と回答を2分している。

また、親子分離と家庭への調査に関する必要性を身体的虐待とネグレクトに分けて、「はい」、「いいえ」で回答してもらったところ、すべて「はい」が9割以上で肯定的であり、「親が子どもに身体的な虐待を加えている場合、公的な機関が家庭を調査することも必要だ」という質問には「はい」696(98.0%)という高率であった。

12. 自己イメージ

回答者の自分自身のイメージについてみると、「配偶者の相手としての自分よりも、子どもの親としての役割を重視」614(86.5%)し、「職場よりも家庭での人間関係を重視」628(88.5%)し、「実家の親との関係よりも配偶者との関係を重視」556(78.3%)し、「他のことよりも子育てを最優先する」520(73.2%)という結果になった。「職場での人間関係を重視する」のは36(5.1%)にすぎなかったのは、今回の調査対象は専業主婦の割合が高いことによる。

13. 育児不安尺度

項目は牧野カツコによる育児不安尺度を使用した。今回は尺度化せず、各項目ごとの割合を集計した。「よくある」の割合が最も高いのは「子どもをおいて外出するのは、心配で仕方がない」286(40.3%)であった。子育てに対して否定的な項目を肯定している層(「よくある」+「時々ある」)の割合が高いのは「毎日くたくたに疲れる」82.4%、「子どもをおいて外出するのは、心配で仕方がない」74.9%で、「子どもがわざわざイライラしてしまう」68.7%、「毎日毎日、同じことの繰り返ししかしていないと思う」68.6%等であった。また、肯定的な項目では「子どもは結構一人で育っていくものだと思う」78.2%、「育児によって自分が成長していると感じられる」79.9%であった。

IV. 考察

本稿では紙幅の関係上、実態調査の全体的傾向を報告した。ここでは分析を深めるための足がかりとして、

自治体によって実態の相違があった項目を把握し、実際の事業実施の状況との関係を考えるための基礎的資料として、自治体別のクロス集計結果について触れながら、考察のポイントを提示する。なお、自治体別の分析については、各項目において自治体名が特定されることがないように配慮する必要があったため、順不同のアルファベットで示してある。

基本属性の中で結果に統計的な有意差が見られたのは「父親との同居(回答者、配偶者とも)」(P<0.05)と、「最終学歴(回答者、配偶者とも)」(P<0.05)の二つであった。回答者自身の父親との同居の割合が高いのはB自治体で1割であった。配偶者の父親との同居割合はA自治体とD自治体で、この場合は配偶者の親家族と同居している可能性が高いことを示している。このことから、A自治体とD自治体は父親との同居については同様の傾向を持っているといえる。

最終学歴では回答者、配偶者ともにB自治体が高学歴の傾向を示している。これらの属性の違いは、子育て支援サービスの提供方法や内容を検討する際、考慮する必要がある。

「子育てに関する相談先」は、自治体の事業実施状況や、社会資源の配置によって左右されるものである。自治体別にみても、いくつかの項目において統計的有意差が示されている。特に「児童館」については施設の有無が、また「自治体独自の相談機関」については、現在の活動の状況に大きく反映される結果となった(P<0.001)。特にC自治体では今回の実態調査の対象であった乳幼児の親子を対象とした独自の子育て支援サービスを実践しており、その違いが反映される結果となった。

また「継続的交流の有無」は、「配偶者の勤務先が同じ近所の人」において差が見られた(P<0.01)が、これはB自治体の社宅の多さが影響していると考えられる。子育て期間中の継続的交流がどの範囲であるかは、サービス選択の基準やニーズにも影響を与える可能性があることが示唆できる。

「心配ごとについて」と「育児において感じること」では、いくつかの項目において自治体別に統計的有意差が見られた。

「心配ごと」では、「育児やしつけの方法に不安を感じる」(P<0.01)、「育児の協力者がいないことで不安を感じる」(P<0.001)、「子どもをたたいてしまいそうで不安を感じる」(P<0.05)、「子どもを叱りすぎているように感じる」(P<0.001)の四つであった。

また「育児において感じること」では、「毎日くたくたに疲れる」(P<0.05)、「子どものことでどうしたらよいかわからなくなる」(P<0.01)、「子どもをおいて外出するのは心配でしかたない」(P<0.05)の三つであった。

ここで注意しなければならないのは、同程度の割合であってもその背景にある要因は違う可能性があるということである。たとえば、「育児やしつけの方法に不安を感じる」要因は、情報が少ないための不安になる場合と、情報がありすぎて自分で取捨選択できないことによる場合があるからである。また「子どもを叱りすぎているように感じる」や「子どもをたたいてしまいそうで不安を感じる」も個人的な認識レベルによって左右されることが予想される。

いずれにしても、自治体ごとに子育て家庭の実態やその背景にあるものに違いがあるであろうことに留意しなければならない。社会的支援の一つとして子育て相談サービス体制を確立しようとする場合、既存の資源や事業実施の状況を勘案する必要があるとともに、サービス提供の拠点をどこにするのかは、自治体ごとの特徴をふまえて検討していくことになる。実際、本調査の対象となった自治体の関連施策の実施状況をまとめたものが下表であるが、取り組みに差があることがわかる。

	A	B	C	D
就学前児童数に対する保育所入所児童数の割合	9.8%	17.2%	19.0%	27.0%
延長保育実施状況	36.8%	11.1%	33.3%	26.5%
一時保育実施状況	5.3%	0.0%	9.5%	0.0%
0歳児童数に対する保育所0歳児入所児童の割合	1.0%	6.1%	10.1%	9.5%
認可外保育施設利用者数	633人	68人	161人	281人
放課後児童クラブの実施状況	8.3%	15.7%	17.9%	18.9%
児童館設置の状況(1,000人あたりカ所数)	0.02	0.00	0.08	0.41

(資料) 平成10年度「全国子育てマップ」より作成

人々の意識や考えは、サービス提供状態によって左右されるものであり、サービス提供があるからこそ、ニーズも大きくなるものであるとも言える。また、育児不安や虐待通告などは、サービスが充実すればするほど、不安になり、通告件数が多くなる。しかし、その意識が何によって形成されているのか、またその可能性が高いものが何であるのかを知ることは必要なことであり、サービス提供を考える時には常に利用者の

視点を踏まえることがいかなるサービスであろうとも必要なことではないかと考える。

先に参考にしたサービス評価の4つの視点は、どれか一つをとって結論を出せるものではなく、複合的な検討を行うことによって初めてその結論が出るものであろう。サービスによっては利用者の視点よりも組織の視点の方が優先されることが望ましい場合もある。しかし、子育て支援サービスは、子育て家庭を対象とした対人サービスであり、常に評価は利用者の行動や意見によって見直されるべきものではないだろうか。

今後は、子育て支援サービス別に本調査結果を再分析するとともに、実際の施策・サービスの実施状況をや利用者の意識をふまえ、選択基準の類型化をうことを検討の課題としたい。

最後に、多忙な業務のなか、実態調査にご協力いただいた自治体の児童福祉主管、保健センターの方々、調査にご回答いただいたすべての皆様に深く感謝申しあげる。

ⁱ 前田正子「公立保育園の民営化：その背景と実際」、LDI REPORT、ライフデザイン研究所、P7、1999,5

ⁱⁱ 厚生省児童家庭局通知「児童育成計画策定指針について」児発第634号 平成7年6月27日

ⁱⁱⁱ 村山祐一、『地方版エンゼルプランの問題点と課題』、「地方版エンゼルプランと私たちの保育」、自治体研究社、1996

^{iv} E.S.Aaltonen, "Client-oriented quality assessment within municipal social services", *International Journal of Social Welfare*, 1999:8, 131-142

^v 牧野カツコ、乳幼児をもつ母親の生活とく育児不安>、家庭教育研究所紀要 No3、1982.

「子育ての社会的支援に関する意識調査」単純集計結果

Q1 健診年齢

	度数	%
1歳6か月児健診	272	38.3
3歳児健診	425	59.9
無回答	13	1.8
合計	710	100.0

Q2 子どもに関わった経験の有無

	ある		ない		無回答		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
専門職として乳幼児に関わった経験	76	10.7	628	88.5	6	0.8	710	100.0
親族知人の乳幼児の世話の経験	264	37.2	441	62.1	5	0.7	710	100.0
乳幼児に直接関わる仕事経験(含バイト)	114	16.1	593	83.5	3	0.4	710	100.0

Q3 子育てに関する家族以外の相談先

	相談する		相談しない		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%
保健所・母子健康センター・保健センター	322	45.4	388	54.6	710	100.0
保育所・保育園	163	23.0	547	77.0	710	100.0
幼稚園	156	22.0	554	78.0	710	100.0
児童館	68	9.6	642	90.4	710	100.0
民生委員・児童委員・主任児童委員	8	1.1	702	98.9	710	100.0
児童相談所	27	3.8	683	96.2	710	100.0
病院	282	39.7	428	60.3	710	100.0
社会福祉協議会	4	0.6	706	99.4	710	100.0
デパート・スーパーなどの出張相談所	61	8.6	649	91.4	710	100.0
育児関連企業の電話相談	53	7.5	657	92.5	710	100.0
自主保育サークル	63	8.9	647	91.1	710	100.0
家庭児童相談室・福祉事務所	20	2.8	690	97.2	710	100.0
自治体独自の子育て支援相談	47	6.6	663	93.4	710	100.0

	あてはまる		あてはまらない		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%
相談先できるところがない	29	4.1	681	95.9	710	100
相談しない	96	13.5	614	86.5	710	100

Q4 交流をもっている関係

	交流あり		交流なし		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%
子育てをしている同級生	556	78.3	154	21.7	710	100.0
子育てをしていない同級生	366	51.5	344	48.5	710	100.0
子育てをしている職場の友人	248	34.9	462	65.1	710	100.0
子育てをしていない職場の友人	210	29.6	500	70.4	710	100.0
配偶者の勤務先が同じ近所の友人	122	17.2	588	82.8	710	100.0
趣味や習い事の友人	156	22.0	554	78.0	710	100.0

Q5-1 配偶者の育児参加

	度数	%
積極的によく参加している	236	33.7
部分的であるが積極的に参加している	353	50.4
参加を求めると消極的であるがしている	80	11.4
求めてもほとんど参加しない	13	1.9
求めても全く参加しない	3	0.4
まったく参加せず、こちらも求めない	12	1.7
無回答	3	0.4
合計	700	100.0
非該当(配偶者なし)	10	
合計	710	

Q5-2 配偶者とのコミュニケーション

		悩み事や 心配事について話 す	子どもに 関することについ て話す	仕事のこ とについ て話す
よくある	度数	279	549	193
	%	39.9	78.4	27.6
時々ある	度数	322	136	352
	%	46.0	19.4	50.3
ほとんどない	度数	86	8	123
	%	12.3	1.1	17.6
全くない	度数	11	4	27
	%	1.6	0.6	3.9
無回答	度数	2	3	5
	%	0.3	0.4	0.7
合計	度数	700	700	700
	%	100.0	100.0	100.0

Q6 子育てサービス選択の条件
短時間の託児サービス

	第1位		第2位		第3位		総合 ポイント	順位
	度数	%	度数	%	度数	%		
1 自宅で利用する	39	5.5	12	1.7	5	0.7	146	
2 決まった施設に通いながら利用する	14	2.0	9	1.3	4	0.6	64	
3 利用する施設が選べる	10	1.4	17	2.4	16	2.3	80	
4 基本的に無料	32	4.5	18	2.5	22	3.1	154	
5 サービスの内容によっては有料（自分の利用希望に沿ったものであれば金額の多少は問題ではない）	10	1.4	35	4.9	51	7.2	151	
6 土日、休日に利用できる	45	6.3	50	7.0	36	5.1	271	5
7 夜間に利用できる	20	2.8	58	8.2	55	7.7	231	
8 都合に合わせて利用できる	186	26.2	108	15.2	88	12.4	862	2
9 決められた範囲で必要に応じて回数を設定できる	1	0.1	4	0.6	6	0.8	17	
10 定期的に利用できる	1	0.1	5	0.7	4	0.6	17	
11 利用回数の上限はなく何度でも利用できる	3	0.4	9	1.3	20	2.8	47	
12 自宅から近い	185	26.1	150	21.1	95	13.4	950	1
13 勤務先から近い	2	0.3	2	0.3	4	0.6	14	
14 繁華街・商業地域に近い	1	0.1			1	0.1	4	
15 駅から近い	7	1.0	18	2.5	17	2.4	74	
16 専門の資格（保育士、保健婦など）を有する職員によるもの	67	9.4	62	8.7	57	8.0	382	3
17 資格の有無は問わないが経験豊富な職員によるもの	28	3.9	83	11.9	78	11.0	288	4
18 特に専門の職員がおらず、母親同士で話したり時間を過ごしたり遊んだりできるもの	0	0.0	0	0	0	0	0	
19 個人で利用できる形態のもの	5	0.7	10	1.4	26	3.7	61	
20 少人数（10人未満）の集団によるもの	3	0.4	16	2.3	28	3.9	69	
21 大人数（10人以上）の集団によるもの							0	
22 市役所が直接実施するもの	7	1.0	10	1.4	9	1.3	50	
23 公的な資金助成等を受けながら民間団体等で行うもの	4	0.6	12	1.7	18	2.5	54	
24 母親同士や近隣の人たちによる互助活動によるもの	16	2.3	2	0.3	7	1.0	59	
25 民間企業が単独で経営・運営するもの			1	0.1	7	1.0	9	
無回答	24	3.4	39	5.5	56	7.9		
合計	710	100.0	710	100.0	710	100.0		

山本他：子ども家庭福祉施策の評価に関する考察(2)

日常的な託児サービス

	第1位		第2位		第3位		総合 ポイント	順位
	度数	%	度数	%	度数	%		
1 自宅で利用する	11	1.5	2	0.3	4	0.6	41	
2 決まった施設に通いながら利用する	32	4.5	28	3.9	17	2.4	169	
3 利用する施設が選べる	21	3.0	30	4.2	33	4.6	156	
4 基本的に無料	29	4.1	19	2.7	14	2.0	139	
5 サービスの内容によっては有料（自分の利用希望に沿ったものであれば金額の多少は問題ではない）	14	2.0	34	4.8	41	5.8	151	
6 土日、休日に利用できる	26	3.7	27	3.8	38	5.4	170	5
7 夜間に利用できる	6	0.8	9	1.3	17	2.4	53	
8 都合に合わせて利用できる	88	12.4	69	9.7	74	10.4	476	3
9 決められた範囲で必要に応じて回数を設定できる	2	0.3	6	0.8	9	1.3	27	
10 定期的に利用できる	14	2.0	13	1.8	14	2.0	82	
11 利用回数の上限はなく何度でも利用できる	7	1.0	24	3.4	28	3.9	97	
12 自宅から近い	218	30.7	136	19.2	81	11.4	1007	1
13 勤務先から近い	12	1.7	9	1.3	10	1.4	64	
14 繁華街・商業地域に近い	5	0.7	3	0.4	3	0.4	24	
15 駅から近い	17	2.4	29	4.1	20	2.8	129	
16 専門の資格（保育士、保健婦など）を有する職員によるもの	111	15.6	108	15.2	69	9.7	618	2
17 資格の有無は問わないが経験豊富な職員によるもの	32	4.5	66	9.3	59	8.3	287	4
18 特に専門の職員がおらず、母親同士で話したり時間を過ごしたり遊んだりできるもの	0	0.0	0	0.0	4	0.6	4	
19 個人で利用できる形態のもの	1	0.1	5	0.7	11	1.5	24	
20 少人数（10人未満）の集団によるもの	7	1.0	22	3.1	51	7.2	116	
21 大人数（10人以上）の集団によるもの	1	0.1	4	0.6	5	0.7	16	
22 市役所が直接実施するもの	11	1.5	8	1.1	17	2.4	66	
23 公的な資金助成等を受けながら民間団体等で行うもの	8	1.1	11	1.5	23	3.2	69	
24 母親同士や近隣の人たちによる互助活動によるもの	6	0.8	3	0.4	4	0.6	28	
25 民間企業が単独で経営・運営するもの	2	0.3	1	0.1	6	0.8	14	
無回答	29	4.1	44	6.2	58	8.2		
合計	710	100.0	710	100.0	710	100.0		

子育て期の母親同士で交流しながら親子での遊び等ができるサービス

	第1位		第2位		第3位		総合 ポイント	順位
	度数	%	度数	%	度数	%		
1 自宅で利用する	2	0.3	2	0.3	1	0.1	11	
2 決まった施設に通いながら利用する	43	6.1	24	3.4	30	4.2	207	
3 利用する施設が選べる	21	3.0	22	3.1	28	3.9	135	
4 基本的に無料	176	24.8	88	12.4	75	10.6	779	2
5 サービスの内容によっては有料（自分の利用希望に沿ったものであれば金額の多少は問題ではない）	6	0.8	12	1.7	14	2.0	56	
6 土日、休日に利用できる	15	2.1	25	3.5	12	1.7	107	
7 夜間に利用できる	1	0.1	2	0.3	1	0.1	8	
8 都合に合わせて利用できる	26	3.7	55	7.7	40	5.6	228	4
9 決められた範囲で必要に応じて回数を設定できる	2	0.3	7	1.0	7	1.0	27	
10 定期的に利用できる	19	2.7	31	4.4	34	4.8	153	
11 利用回数の上限はなく何度でも利用できる	12	1.7	27	3.8	42	5.9	132	
12 自宅から近い	172	24.2	126	17.6	79	11.1	845	1
13 勤務先から近い	2	0.3	0	0.0	0	0.0	6	
14 繁華街・商業地域に近い	4	0.6	2	0.3	1	0.1	17	
15 駅から近い	0	0.0	6	0.8	19	2.7	31	
16 専門の資格（保育士、保健婦など）を有する職員によるもの	9	1.3	7	1.0	10	1.4	51	
17 資格の有無は問わないが経験豊富な職員によるもの	17	2.4	38	5.4	35	4.9	162	
18 特に専門の職員がおらず、母親同士で話したり時間を過ごしたり遊んだりできるもの	58	8.2	49	6.9	74	10.4	346	3
19 個人で利用できる形態のもの	11	1.5	15	2.1	22	3.1	85	
20 少人数（10人未満）の集団によるもの	23	3.2	68	9.6	43	6.1	228	4
21 大人数（10人以上）の集団によるもの	4	0.6	15	2.1	14	2.0	56	
22 市役所が直接実施するもの	13	1.8	15	2.1	22	3.1	91	
23 公的な資金助成等を受けながら民間団体等で行うもの	11	1.5	12	1.7	21	3.0	78	
24 母親同士や近隣の人たちによる互助活動によるもの	30	4.2	31	4.4	20	2.8	172	
25 民間企業が単独で経営・運営するもの	4	0.6			6	0.8	18	
無回答	29	4.1	42	5.9	60	8.5		
合計	710	100.0	710	100.0	710	100.0		

専門的な相談

	第1位		第2位		第3位		総合 ポイント	順位
	度数	%	度数	%	度数	%		
1 自宅で利用する	7	1.0	7	1.0	8	1.1	43	
2 決まった施設に通いながら利用する	12	1.7	12	1.7	5	0.7	65	
3 利用する施設が選べる	10	1.4	16	2.3	10	1.4	72	
4 基本的に無料	141	19.9	76	10.7	83	12.0	660	2
5 サービスの内容によっては有料（自分の利用希望に沿ったものであれば金額の多少は問題ではない）	3	0.4	13	1.8	24	3.4	59	
6 土日、休日に利用できる	19	2.7	41	5.8	38	5.4	177	
7 夜間に利用できる	12	1.7	26	3.7	29	4.1	117	
8 都合に合わせて利用できる	30	4.2	56	7.9	43	6.1	245	5
9 決められた範囲で必要に応じて回数を設定できる	11	1.5	2	0.3	3	0.4	40	
10 定期的に利用できる	4	0.6	22	3.1	25	3.5	81	
11 利用回数の上限はなく何度でも利用できる	0	0.0	35	4.9	46	6.5	116	
12 自宅から近い	41	5.8	32	4.5	56	7.9	303	3
13 勤務先から近い	0	0.0	2	0.3	0	0.0	4	
14 繁華街・商業地域に近い	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	
15 駅から近い	1	0.1	9	1.3	13	1.8	34	
16 専門の資格（保育士、保健婦など）を有する職員によるもの	301	42.4	93	13.1	74	10.4	1163	1
17 資格の有無は問わないが経験豊富な職員によるもの	29	4.1	70	9.9	28	3.9	255	4
18 特に専門の職員がおらず、母親同士で話したり時間を過ごしたり遊んだりできるもの	1	0.1	0	0.0	5	0.7	8	
19 個人で利用できる形態のもの	12	1.7	36	5.1	55	7.7	163	
20 少人数（10人未満）の集団によるもの	1	0.1	4	0.6	3	0.4	14	
21 大人数（10人以上）の集団によるもの	0	0.0	1	0.1	0	0.0	2	
22 市役所が直接実施するもの	25	3.5	44	6.2	51	7.2	214	
23 公的な資金助成等を受けながら民間団体等で行うもの	6	0.8	16	2.3	23	3.2	73	
24 母親同士や近隣の人たちによる互助活動によるもの	3	0.4	4	0.6	4	0.6	21	
25 民間企業が単独で経営・運営するもの	2	0.3	4	0.6	3	0.4	17	
無回答	39	5.5	59	8.3	79	11.1		
合計	710	100.0	710	100.0	710	100.0		

日常的な相談や情報の入手

	第1位		第2位		第3位		総合 ポイント	順位
	度数	%	度数	%	度数	%		
1 自宅で利用する	43	6.1	32	4.5	17	2.4	210	
2 決まった施設に通いながら利用する	10	1.4	6	0.8	14	2.0	56	
3 利用する施設が選べる	9	1.3	16	2.3	9	1.3	68	
4 基本的に無料	167	23.5	93	13.1	67	9.4	754	1
5 サービスの内容によっては有料（自分の利用希望に沿ったものであれば金額の多少は問題ではない）	1	0.1	10	1.4	5	0.7	28	
6 土日、休日に利用できる	13	1.8	18	2.5	30	4.2	105	
7 夜間に利用できる	4	0.6	7	1.0	9	1.3	35	
8 都合に合わせて利用できる	41	5.8	52	7.3	49	6.9	276	5
9 決められた範囲で必要に応じて回数を設定できる	1	0.1	1	0.1	2	0.3	7	
10 定期的に利用できる	11	1.5	24	3.4	14	2.0	95	
11 利用回数の上限はなく何度でも利用できる	13	1.8	30	4.2	38	5.4	137	
12 自宅から近い	45	6.3	58	8.2	52	7.3	303	4
13 勤務先から近い	1	0.1					3	
14 繁華街・商業地域に近い	1	0.1	4	0.6	5	0.7	16	
15 駅から近い			4	0.6	11	1.5	19	
16 専門の資格（保育士、保健婦など）を有する職員によるもの	40	5.6	32	4.5	34	4.8	218	
17 資格の有無は問わないが経験豊富な職員によるもの	33	4.7	63	8.9	40	5.6	415	2
18 特に専門の職員がおらず、母親同士で話したり時間を過ごしたり遊んだりできるもの	24	3.4	23	3.2	21	3.0	139	
19 個人で利用できる形態のもの	20	2.8	35	4.9	44	6.2	174	
20 少人数（10人未満）の集団によるもの	2	0.3	5	0.7	5	0.7	21	
21 大人数（10人以上）の集団によるもの			1	0.1	2	0.3	4	
22 市役所が直接実施するもの	42	5.9	47	6.6	48	6.8	268	
23 公的な資金助成等を受けながら民間団体等で行うもの	4	0.6	25	3.5	21	3.0	83	
24 母親同士や近隣の人たちによる互助活動によるもの	34	4.8	34	4.8	40	5.6	360	3
25 民間企業が単独で経営・運営するもの	3	0.4	11	1.5	25	3.5	56	
無回答	48	6.8	79	11.1	108	15.2		
合計	710	100.0	710	100.0	710	100.0		

山本他：子ども家庭福祉施策の評価に関する考察(2)

Q7 就学前児童の社会的支援サービスについて

	そう思う		まあそう思う		あまりそう思わない		そう思わない		無回答		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
実施主体は問わずサービスの選択肢を増やすこと等は望ましい	433	61.0	231	32.5	23	3.2	6	0.8	17	2.4	710	100.0
家庭での育児を妨げるようなサービス整備には疑問がある	83	11.7	127	17.9	280	39.4	206	29.0	14	2.0	710	100.0
保育園と幼稚園は同じ社会的支援サービスである	145	20.4	232	32.7	189	26.6	129	18.2	15	2.1	710	100.0
就労の有無に関わらず、保育園・幼稚園の選択肢は広がるべきである	495	69.7	157	22.1	31	4.4	13	1.8	14	2.0	710	100.0
異なる専門性があるので、保育園と幼稚園等二つのサービスがあっても良い	192	27.0	270	38.0	164	23.1	60	8.5	24	3.4	710	100.0

Q8 子育て相談の必要

	大変強く感じた時期		強く感じた時期		やや感じた時期	
	度数	%	度数	%	度数	%
妊娠中	42	5.9	27	3.8	59	8.3
出産のための入院中	19	2.7	17	2.4	8	1.1
退院した直後	92	13.0	36	5.1	31	4.4
退院後1ヶ月まで	153	21.5	107	15.1	36	5.1
1ヶ月～3ヶ月	106	14.9	104	14.6	78	11.0
4ヶ月～6ヶ月	26	3.7	66	9.3	66	9.3
7ヶ月～11ヶ月	30	4.2	45	6.3	48	6.8
1歳頃	24	3.4	67	9.4	74	10.4
1歳6ヶ月頃	39	5.5	60	8.5	49	6.9
2歳頃	33	4.6	44	6.2	64	9.0
2歳6ヶ月頃	20	2.8	37	5.2	43	6.1
3歳頃	39	5.5	28	3.9	71	10.0
なし	55	7.7	32	4.5	27	3.8
無回答	32	4.5	40	5.6	56	7.9
合計	710	100.0	710	100.0	710	100.0

Q9 心配事について

	よくある		時々ある		ほとんどない		全くない		無回答		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
育児やしつけの方法について不安を感じる	150	21.1	412	58.0	121	17.0	12	1.7	15	2.1	710	100.0
話し相手がいなくて孤独を感じ育児の協力者がいないことで負担を感じる	36	5.1	162	22.8	315	44.4	183	25.8	14	2.0	710	100.0
自分の時間がもてないことに不満を感じる	60	8.5	223	31.4	269	37.9	144	20.3	14	2.0	710	100.0
子どもを預ける先がないことに不満を感じる	162	22.8	364	51.3	141	19.9	30	4.2	13	1.8	710	100.0
子どもを預ける先がないことに外出時に預ける先がないことに不満を感じる	111	15.6	215	30.3	272	38.3	99	13.9	13	1.8	710	100.0
子どもをたたいてしまいそうで不安を感じる	107	15.1	235	33.1	258	36.3	96	13.5	14	2.0	710	100.0
子どもを叱りすぎているように感じる	133	18.7	267	37.6	205	28.9	90	12.7	15	2.1	710	100.0
	169	23.8	340	47.9	135	19.0	53	7.5	13	1.8	710	100.0

Q10 しつけの方針

	回答者		配偶者	
	度数	%	度数	%
言葉で言って聞かせ、たたくことはまったくしない	60	8.5	240	34.0
なるべく言葉で言って聞かせるようにしているが、まれにたたいてしつけるときもある	460	64.8	314	44.5
言葉だけでわからないときはたたいてしつけようようにしている	169	23.8	114	16.2
なるべくたたいてしつけようようにしており、まれに言葉で言って聞かせるときもある	2	0.3	8	1.1
たたいてしつけをし、言葉で言って聞かせることはまったくしない	1	0.1	2	0.3
無回答	18	2.5	27	3.8
合計	710	100	705	100
非該当			5	
合計			710	

Q11 過去の親からのしつけられ方

	父親から		母親から	
	度数	%	度数	%
言葉によるしつけだけで、たたかれることはなかった	390	56.7	313	44.6
言葉によるしつけがほとんどで、時々たたかれた	202	29.4	298	42.5
言葉によるしつけとたたかれることが同じくらいだった	46	6.7	72	10.3
たたかれることがほとんどで、時々言葉でしつけられた	22	3.2	13	1.9
たたかれるしつけだけで、言葉によるしつけはなかった	12	1.7	1	0.1
無回答	16	2.3	5	0.7
合計	688	100.0	702	100.0
非該当（離別・死別）	22		8	
合計	710		710	

Q11-1 過去の親からのしつけに対する感じ方

	父親から		母親から	
	度数	%	度数	%
子どもの頃は現在も親のしつけ方に不満はない	379	55.1	374	53.3
子どもの頃は親のしつけ方に不満があったが、現在は理解して子どもの頃も、現在も親のしつけ方に不満を感じている	194	28.2	236	33.6
子どもの頃は理解していたが、現在不満を感じている	75	10.9	62	8.8
無回答	24	3.5	22	3.1
無回答	16	2.3	8	1.1
合計	688	100.0	702	100.0
非該当（離別・死別）	22		8	
合計	710		710	

Q12 子育てに関する考え方

	はい		いいえ		無回答		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
しつけのためには体罰も仕方がない	334	47.0	364	51.3	12	1.7	710	100.0
愛情があれば体罰は行ってもいい	349	49.2	346	48.7	15	2.1	710	100.0
体罰は子どもの心に傷をつけると思う	565	79.6	130	18.3	15	2.1	710	100.0
親が子どもに身体的な虐待を加えている場合、公的な機関が、親子を一時的に分離することも必要だ	674	94.9	30	4.2	6	0.8	710	100.0
親が子どもに十分な食事をあたえなかつたり衛生環境が不適切な場合は公的な機関が、親子を一時的に分離することも必要だ	680	95.8	25	3.5	5	0.7	710	100.0
親が子どもに身体的な虐待を加えている場合、公的な機関が家庭を調査することも必要だ	696	98.0	9	1.3	5	0.7	710	100.0
親が子どもに十分な食事をあたえなかつたり衛生環境が不適切な場合は公的な機関が家庭を調査することも必要だ	692	97.5	12	1.7	6	0.8	710	100.0

山本他：子ども家庭福祉施策の評価に関する考察(2)

Q13 児童相談所の立ち入り調査権の認知

	度数	%
知っている	230	32.4
知らない	474	66.8
無回答	6	0.8
合計	710	100.0

Q14 市民の児童相談所への通告義務の認知

	度数	%
知っている	162	22.8
知らない	543	76.5
無回答	5	0.7
合計	710	100.0

Q13-1 児童相談所の立ち入り調査権について

	度数	%
他人の子育てについて公的機関が家庭に立ち入ることは必要でない	14	2.0
子どもの傷など確実な証拠がある場合に限って必要である	198	27.9
子どもの保護のためには虐待・ネグレクトが疑わしい時点で立ち入り調査が必要である	490	69.0
無回答	8	1.1
合計	710	100.0

Q14-1 市民の児童相談所への通告義務について

	度数	%
他人の子育てについて通告することは必要でない	9	1.3
子どもの傷など確実な証拠がある場合に限って通告は必要である	303	42.7
子どもの保護のためには虐待・ネグレクトが疑わしい時点で通告が必要である	393	55.4
無回答	5	0.7
合計	710	100.0

Q15 自己イメージ①

	度数	%
子どもの親としての役割を重視する	614	86.5
配偶者の相手としての役割を重視する	48	6.8
無回答	48	6.8
合計	710	100.0

自己イメージ②

	度数	%
職場での人間関係を重視する	36	5.1
家庭での人間関係を重視する	628	88.5
無回答	46	6.5
合計	710	100.0

自己イメージ③

	度数	%
自分の親(実家)との関係を重視する	87	12.3
現在の配偶者との関係を重視する	556	78.3
無回答	67	9.4
合計	710	100.0

自己イメージ④

	度数	%
子育て以外を優先する場合がある	151	21.3
子育てを最優先にする	520	73.2
無回答	39	5.5
合計	710	100.0

Q16 育児において感じること

	よくある		時々ある		ほとんどない		全くない		無回答		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
毎日ぐたぐたと疲れる	170	23.9	415	58.5	106	14.9	7	1.0	12	1.7	710	100.0
朝、目覚めがさわやかである	88	12.4	315	44.4	263	37.0	32	4.5	12	1.7	710	100.0
考えごとがおっくうでいやになる	59	8.3	311	43.8	281	39.6	43	6.1	16	2.3	710	100.0
毎日はりつめた緊張感がある	68	9.6	238	33.5	330	46.5	60	8.5	14	2.0	710	100.0
生活の中にゆとりを感じる	63	8.9	327	46.1	253	35.6	52	7.3	15	2.1	710	100.0
子どもがわずらわしくて、イライラしてしまう	75	10.6	413	58.2	162	22.8	45	6.3	15	2.1	710	100.0
自分は子どもをうまく育てていると思う	44	6.2	419	59.0	199	28.0	28	3.9	20	2.8	710	100.0
子どものことで、どうしたらよいかわからなくなることがある	67	9.4	388	54.6	212	29.9	28	3.9	15	2.1	710	100.0
子どもは結構一人で育っていくものだと思う	114	16.1	441	62.1	118	16.6	21	3.0	16	2.3	710	100.0
子どもをおいて外出するのは、心配で仕方がない	286	40.3	246	34.6	135	19.0	25	3.5	18	2.5	710	100.0
自分一人で子どもを育てているのだという圧迫感を感じてしまう	58	8.2	186	26.2	348	49.0	103	14.5	15	2.1	710	100.0
育児によって自分が成長していると感じられる	242	34.1	325	45.8	112	15.8	15	2.1	16	2.3	710	100.0
毎日毎日、同じことの繰り返ししかしていないと思う	139	19.6	348	49.0	167	23.5	44	6.2	12	1.7	710	100.0
子どもを育てるためにがまんばかりしていると思う	66	9.3	315	44.4	265	37.3	52	7.3	12	1.7	710	100.0

Q17 健診に来た子どもの性別

	度数	%
女子	334	47.0
男子	363	51.1
無回答	13	1.8
合計	710	100.0

Q18 回答者性別

	度数	%
女性	696	98.0
男性	3	0.4
無回答	11	1.5
合計	710	100.0

Q19 配偶者（同棲者・パートナーを含む）の有無

	度数	%
いる	700	98.6
いない	10	1.4
合計	710	100.0

Q20 年齢

	回答者		配偶者	
	度数	%	度数	%
20～24歳	17	2.4	6	0.9
25～29歳	139	19.6	72	10.3
30～34歳	342	48.2	267	38.1
35～39歳	169	23.8	232	33.1
40～44歳	20	2.8	81	11.6
45以上	3	0.4	25	3.6
無回答	20	2.8	17	2.4
合計	710	100.0	700	100.0
非該当			10	

Q21 子どもの数

	度数	%
0人	1	0.1
1人	265	37.3
2人	335	47.2
3人	79	11.1
4人	10	1.4
5人	2	0.3
6人	2	0.3
無回答	16	2.3
合計	710	100.0

Q21-2 子どもの出生順位

	度数	%
1番目	391	55.1
2番目	230	32.4
3番目	61	8.6
4番目	4	0.6
5番目	2	0.3
無回答	22	3.1
合計	710	100.0

Q22-1 現在同居している家族

	同居している		同居していない		回答数	
	度数	%	度数	%	度数	%
配偶者	695	97.9	15	2.1	710	100.0
子ども	698	98.3	12	1.7	710	100.0
回答者の父親	24	3.4	686	96.6	710	100.0
回答者の母親	31	4.4	679	95.6	710	100.0
配偶者の父親	58	8.2	652	91.8	710	100.0
配偶者の母親	66	9.3	644	90.7	710	100.0
その他	21	3.0	689	97.0	710	100.0

山本他：子ども家庭福祉施策の評価に関する考察(2)

Q22-2 単身赴任の状況

	度数	%
配偶者の単身赴任なし	637	91.0
過去配偶者の単身赴任あり	27	3.9
現在配偶者が単身赴任中	11	1.6
過去自分に単身赴任経験あり	0	0.0
現在自分が単身赴任中	0	0.0
過去に夫婦ともに単身赴任の経験あり	0	0.0
無回答	25	3.6
合計	700	100.0
非該当(配偶者なし)	10	
合計	710	

Q22-3 居住地と子育てへの協力

	回答者の親		配偶者の親	
	度数	%	度数	%
近距離 預かってもらうことあり	262	37.536	169	24.5997
遠距離 預かってもらうことあり	61	8.7393	24	3.49345
近距離 預かってもらうことあまりなし	93	13.324	187	27.2198
遠距離 預かってもらうことあまりなし	276	39.542	296	43.0859
無回答	6	0.8596	11	1.60116
合計	698	100	687	100
非該当(両親なし)	12		13	
非該当(配偶者なし)			10	
合計	12		23	
	710		710	

Q23 居住期間

	度数	%
1か月以内	6	0.8
2～3か月	32	4.5
4～5か月	21	3.0
6か月～1年以内	38	5.4
1年～3年	291	41.0
4年以上	321	45.2
無回答	1	0.1
合計	710	100.0

Q24 就労状況

	回答者		配偶者	
	度数	%	度数	%
フルタイム(民間)	51	7.2	540	77.1
フルタイム(公務)	28	3.9	52	7.4
パート(民間)	54	7.6	5	0.7
パート(公務)	1	0.1	2	0.3
自営	33	4.6	93	13.3
なし	533	75.1	3	0.4
無回答	10	1.4	5	0.7
合計	710	100.0	700	100.0
非該当(配偶者なし)			10	
合計	710		710	

Q25 最終学歴

	回答者		配偶者	
	度数	%	度数	%
中学卒	16	2.2535	26	3.71429
高校卒	201	28.31	187	26.7143
高専・専門学校卒	176	24.789	91	13
大学卒	295	41.549	351	50.1429
大学院卒	15	2.1127	44	6.28571
無回答	7	0.9859	1	0.14286
合計	710	100	700	100
非該当(配偶者なし)			10	
			710	

Q26 健康状態

	回答者		配偶者	
	度数	%	度数	%
健康	656	92.4	645	92.1
継続的に通院中	47	6.6	49	7.0
無回答	7	1.0	6	0.9
合計	710	100.0	700	100.0
非該当 (配偶者なし)			10	
			710	

Q27 回答者の保育所・幼稚園の利用経験

	度数	%
保育所	159	22.394
幼稚園	487	68.592
保育所と幼稚園	39	5.493
どちらにも通わなかった	24	3.3803
無回答	1	0.1408
合計	710	100

Q28 家庭の経済状態

	度数	%
かなり余裕がある	12	1.7
余裕がある	88	12.4
普通	367	51.7
やや苦しい	188	26.5
かなり苦しい	50	7.0
無回答	5	0.7
合計	710	100.0

Q29 自由回答記入の有無

	立ち入り調査と 通告義務について		子育て支援サービス への要望	
	度数	%	度数	%
記入あり	359	50.6	391	55.1
無回答	351	49.4	319	44.9
合計	710	100	710	100

山本他：子ども家庭福祉施策の評価に関する考察(2)

自治体別クロス集計(3歳児)統計的有意差があったもの

子育てに関する相 (相談している割合:%)

	保健所・母子保健センター・	保育所保育園	幼稚園	児童館	病院	デパート等の出張相談所	自治体独自の相談機関
A	33.1	16.0	28.8	2.5	42.9	9.2	0.0
B	38.0	27.8	17.7	0.0	25.3	1.3	2.5
C	48.6	31.4	15.2	15.2	40.0	1.9	13.3
D	52.6	26.9	25.6	16.2	33.3	9.0	5.1
合計	41.4	24.0	22.8	7.8	37.2	5.9	4.7
有意水準	*	*	*	***	*	*	***

* < 0.05 ** < 0.01 *** < 0.001

継続的交流の有無

配偶者の勤務先が同じ近所の友人 (%)

	交流なし	交流あり	合計
A	89.6	10.4	100.0
B	72.2	27.8	100.0
C	84.8	15.2	100.0
D	80.8	19.2	100.0
合計	83.5	16.5	100.0

心配事について

1. 育児やしつけの方法に不安を感じる (%)

	よくある	時々ある	ほとんどない	全くない	合計
A	23.5	62.3	14.2	0.0	100.0
B	19.2	64.1	16.7	2.9	100.0
C	26.9	58.7	11.5	5.2	100.0
D	16.9	49.4	28.6	1.7	100.0
合計	22.3	59.4	16.6	1.7	100.0

3. 育児の協力者がいないことで負担に感じる (%)

	よくある	時々ある	ほとんどない	全くない	合計
A	10.5	27.8	37.0	24.7	100.0
B	7.7	21.8	62.8	7.7	100.0
C	8.7	44.2	26.0	21.2	100.0
D	2.6	31.2	40.3	26.0	100.0
合計	8.1	31.4	39.7	20.9	100.0

7. 子どもをたいてしまいうで不安に感じ (%)

	よくある	時々ある	ほとんどない	全くない	合計
A	28.4	37.7	28.4	5.6	100.0
B	17.9	42.3	28.2	11.5	100.0
C	18.4	43.7	26.2	11.7	100.0
D	10.4	37.7	32.5	19.5	100.0
合計	20.7	40.0	28.6	10.7	100.0

8. 子どもを叱りすぎているように感じる程度 (%)

	よくある	時々ある	ほとんどない	全くない	合計
A	3.1	64.4	32.5	0.0	100.0
B	7.7	62.8	29.5	0.0	100.0
C	10.7	68.0	21.4	0.0	100.0
D	9.2	67.1	22.4	1.3	100.0
合計	7.0	65.5	27.3	0.2	100.0

属性 (%)

	回答者父との同居		配偶者父との同居		合計
	同居している	同居していない	同居している	同居していない	
A	97.5	2.5	87.1	12.9	100.0
B	89.9	10.1	97.5	2.5	100.0
C	96.2	3.8	93.3	6.7	100.0
D	97.4	2.6	85.9	14.1	100.0
合計	95.8	4.2	90.4	9.6	100.0

回答者の最終学歴 (%)

	中学卒	高校卒	高等・専門学校卒	大学卒	大学院卒	合計
A	4.9	35.2	24.1	34.0	1.9	100.0
B	1.3	19.2	28.2	47.4	3.8	100.0
C	1.0	32.0	17.5	48.5	1.0	100.0
D	2.6	34.6	32.1	28.2	2.6	100.0
合計	2.9	31.4	24.7	39.0	2.1	100.0

育児において感じること

1. 毎日くたくたに疲れる (%)

	よくある	時々ある	ほとんどない	全くない	合計
A	16.0	67.9	15.4	0.6	100.0
B	38.5	50.0	11.5	0.0	100.0
C	27.9	60.6	10.6	1.0	100.0
D	27.3	51.9	18.2	2.6	100.0
合計	25.2	59.9	14.0	1.0	100.0

8. 子どものことでどうしたらよいかわからなくなることがある

	よくある	時々ある	ほとんどない	全くない	合計
A	14.3	66.5	13.7	5.6	100.0
B	17.9	64.1	17.9	0.0	100.0
C	19.2	57.7	20.2	2.9	100.0
D	16.0	56.0	24.0	4.0	100.0
合計	16.5	62.0	17.9	3.6	100.0

10. 子どもをおいて外出するのは心配でしか (%)

	よくある	時々ある	ほとんどない	全くない	合計
A	39.4	38.8	18.1	3.8	100.0
B	39.7	29.5	25.6	5.1	100.0
C	35.6	47.5	11.9	5.0	100.0
D	42.1	23.7	30.3	3.9	100.0
合計	39.0	36.4	20.2	4.3	100.0

回答者の最終学歴 (%)

	中学卒	高校卒	高等・専門学校卒	大学卒	大学院卒	合計
A	3.1	31.7	16.8	45.3	3.1	100.0
B	3.8	12.7	15.2	58.2	10.1	100.0
C	5.9	24.8	8.9	56.4	4.0	100.0
D	6.5	35.1	15.6	37.7	5.2	100.0
合計	4.5	27.0	14.4	49.0	5.0	100.0